

令和7年 10 月9日

関係各位

京都市立堀川高等学校
校 長 船越 康平

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究指定校

京都市立堀川高等学校 第27回 教育研究大会のご案内（二次）

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は本校教育活動に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、来る11月7日（金）に、本校におきまして第27回教育研究大会を下記のとおり開催いたします。

本大会は、京都市立高等学校教育改革のパイロット校に指定された本校の教育活動を公開し、ご指導とご助言を仰ぐとともに、よりよい高等学校教育の実現に向けて活発な交流を行うために開催するものでございます。

本大会では、学びの意欲と自己調整力を高めるための取組などを報告する全体会に加え、研究授業や公開授業、および教科別分科会を実施いたします。

ご多用のことと拝察いたしますが、多くの方々にご来校、ご参観いただき、ご指導を賜りたくご案内申し上げます。

記

1. 研究大会テーマ

「適切な自己評価、自己分析をし、行動に移すことができる生徒の育成」

2. 実施日時等

日時： 令和7年 11 月 7 日（金） 9:20 ～ 16:25

場所： 京都市立堀川高等学校 本館

（京都市中京区東堀川通錦小路上る四坊堀川町 622-2）

・プログラム

8:50		9:20		10:20		10:40		11:30		11:45		12:35		13:35		15:25		15:40		16:25					
受付		開 会 挨 拶		基 調 講 演		休 憩 （ 移 動 ）		研 究 授 業 Ⅰ		公 開 授 業 Ⅰ		休 憩 （ 移 動 ）		研 究 授 業 Ⅱ		公 開 授 業 Ⅱ		休 憩 ・ 昼 食		教 科 別 分 科 会		休 憩 （ 移 動 ）		全 体 会	

3. 内 容

(1) 事前動画配信

教育研究大会にご参加いただくにあたって、本校の教育課程や大会テーマに関して事前に理解を深めていただくため、10分程度の動画を事前配信いたします。動画の URL は後日本校ホームページに掲載いたしますので、大会参加前にご覧ください。

【動画の概要】

① 教育課程の成果と課題

本校では、令和4年度入学生から1年次から3年次にかけて段階的に授業時数を減じていく教育課程に変更しました。これにより生じた「余白」時間を有効に活用すべく、1年次には、学習方略を自己評価し、学習集団として成長するための「学びのアセスメント」の時間を設けました。また、「探究基礎」（総合的な探究の時間）の内容を更新し、2年次後期には、自由度を高めた活動「Academic Project」の時間を設けました。動画では、令和4年度入学生が卒業し、教育課程が「一周」したことで見えてきた成果と課題についてまとめます。

②研究大会テーマについて

昨年度と同じ「適切な自己評価、自己分析をし、行動に移すことができる生徒の育成」を大会テーマとして掲げている意図や、研究授業をご見学いただく際に注目していただきたい点についてもお説明します。

(2)当日のプログラム

9:20～10:20

① 開会式

挨拶 京都市教育委員会
京都市立堀川高等学校

②基調講演

講師 西岡 加名恵 氏（京都大学大学院教育学研究科 教授）
演題 自ら学ぶ力をどう育てるか？ —パフォーマンス評価の視点から—

10:40～11:30

①研究授業 I

各教科の研究授業実践（1年歴史総合／2年数学研究 I ／2年地学基礎）

②公開授業 I

各教科の公開授業実践（1年化学基礎／2年文学国語／2年数学研究 I
／2年 English Expression I ／2年物理研究 I ／2年生物研究 I ）

※講座展開の都合上、複数の教室に分かれて実施する授業があります。

11:45～12:35

①研究授業Ⅱ

各教科の研究授業実践(1年言語文化／2年英語コミュニケーションⅡ)

② 公開授業Ⅱ

各教科の公開授業実践(1年情報Ⅰ／2年公共)

13:35～15:25

○教科別分科会(国語科／地理歴史・公民科／数学科／理科／英語科)

- ・研究授業ⅠおよびⅡに関する研究協議。
- ・授業時数減をはじめとしたカリキュラム改編に対応してどのような工夫をしてきたかについて各教科よりご報告します。
- ・授業の内外を問わず教科指導のあり方について今後改善すべきことはどのようなことか、教科学習において「行動に移す」とは具体的に何を指すか、行動の変容をどのように評価すべきかなどについて議論します。

15:40～16:25

○全体会

本校のカリキュラムには、「学びのアセスメント」や「空き7限」など、学びの自己調整を促すための仕組みが用意されており、各教科の学習や探究活動において生徒の行動に結びつくにはどのような仕掛けが有用か試行錯誤を重ねています。全体会では、そうした取組の一端を具体的な事例紹介を交えながらご報告します。

4. 研究授業

研究授業Ⅰ(10:40～11:30)

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
歴史総合	タイトル	“民主主義”と私たち	竹内 嶺 1年5組 (探究学科群) 演習室7・8
	概要	諸資料を活用して、民衆の戦争熱高揚の論理を理解する。	
	ねらい	日中戦争に関する日本の指導者・知識人層および民衆の対中国感情について、諸資料を活用して、人々が虐殺や戦争の加担に向かう差別的感情やその論理について多面的・多角的に考察し、理解する。	
数学研究Ⅰ	タイトル	分野横断的視点を養う問題演習	杉野 公亮 2年3・5組 (人間探究科 ・発展講座) 演習室1・2・3・4
	概要	さまざまな解法が考えられる図形問題の演習・交流を行う。	
	ねらい	解法を考えるに際し、グループで複数のアプローチを検討・交流することにより、統合的・発展的、体系的に考えて問題演習に取り組むことができるようになる。	

研究授業Ⅱ（11:45～12:35）

授業名	授業内容		授業者 担当クラス 場所
言語文化	タイトル	羅生門	東前 明日香 1年3組前半講座 (探究学科群) G-CALL教室
	概要	下人が老婆と会話する場面をグループで脚本に書き換えたものを用い、生徒に下人の台詞を演じさせることを通して、場面設定をふまえた登場人物の心情の変化を読み取り、人物像を考えさせる。	
	ねらい	生徒が下人の心情の変化を読み取る際の〈視点〉を増やすことを促す。〈視点〉が増えることで、下人の人物像について、一人で読んだときの考えが更新されることをねらう。	
地学基礎	タイトル	自己学習に向けた問題文の読み方を中心とした演習	貴村 仁 2年1・2組 (普通科・人文 探究コース) 演習室1・2・3・4
	概要	難易度の高い問題演習を行い、生徒自身に知識確認をさせるとともに、自己学習を行う際の問題文の読み方を意識させることを促す。	
	ねらい	生徒に自己学習を促すことは肝要であるが、いざ取り組んだ際に自身で太刀打ちができないという意見が散見される。そこで、基本的な問題文中の読み取り方法の整理を通して、自己学習時の問題文の読み方の練習をおこなう。	
英語コミュニケーションⅡ	タイトル	CROWN Lesson 7: Why Biomimicry?	藤本 真由香 2年3・4組 (人間探究科 ・自然探究科 ・発展講座) 授業研究室
	概要	Biomimicry(生物模倣)の事例に関する交流	
	ねらい	自然のデザインや仕組みが、どのように技術や製品の開発に生かされているかについて学び、環境保護の観点からも注目されているBiomimicryの考え方を理解することができる。 教科書で紹介されている新幹線車両の開発などの具体例を通して理解を深めるとともに、生徒自身が調べた他の事例についても説明できるようになる。	

5. 公開授業

公開授業Ⅰ（10:40～11:30）

化学基礎	濱田 悟	1年3組 (探究学科群)	S-403
文学国語	北村 大知	2年1組 (普通科)	S-301
数学研究Ⅰ	西川 要	2年3・5組 (人間探究科・標準講座)	自然科学教室

English Expression I	中村 浩子 川畑 公美子	2年2組 (普通科)	S-302 S-303
物理研究 I	小島 直起 吉田 哲 清水 恵吾	2年3・4・5・6組 (自然探究科)	S-304 物理地学教室 S-306
生物研究 I	片山 雄一郎	2年3・4・5組 (自然探究科)	S-305

公開授業Ⅱ(11:45~12:35)

情報 I	高松 凌多	1年5組 (探究学科群)	CAI 教室
公共	乾 凜久登	2年6組 (自然探究科)	S-306

6. 分科会

分科会(13:35~15:25)

分科会 国語科	テーマ	学習者が〈視点〉を増やすために、授業の内外でどのような取組が可能であるか	
前半は、本校の教育課程の説明や「空き 7 限」を利用した授業内外での取組の実践例を説明した後、授業者より授業概要の説明と研究協議を行う。 後半は、学習者が本文を読むだけに留まらず、授業内外で読みを深める方策を自身で模索・選択できるようにするために、教員側からどのような仕掛けができるのか、グループで協議する。			
発表 東前 明日香 若林 武史	司会 鶴藺 智志	記録 大上 若奈	
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 上杉 まり 氏			

分科会 地理歴史・公民科	テーマ 堀川高校地歴公民科 3 年間の学習のストーリー		
研究授業の内容をふまえ総合科目・探究科目で広く生徒に獲得してほしい力を示すとともに、その力の獲得のための仕掛けや手立てを一人ひとりの学びの文脈のなかにどのように位置づけていくのか、実践事例をもとに紹介する。具体的な事例の共有に加え、堀川高校地歴公民科 3 年間の学習ストーリーの再構築も視野に協議をおこなう。			
発表 鈴木 洋太郎	司会 宮尾 拓也		記録 平松 瑛大
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 竹下 玄太 氏			

分科会 数学科	テーマ 分野横断的視点	
本授業で実践を行った、演習・交流の効果について評価したのち、授業内あるいは授業外で、分野横断的視点を養うためにどのような手段が有効であるか、各校での状況の共有を踏まえ、検討する。		
発表 杉野 公亮	司会 續木 俊哉	記録 中野 高志
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 中村 央志 氏		

分科会 理科	テーマ 「理科的な行動」を促す, 育むための授業における教員側の仕掛けの模索	
前半は昨年度に引き続き、「空き 7 限」を生徒がどのように利用しているかアンケートをもとに分析する。 後半に、生徒の理科的な思考や行動を引き出し、育んでいくための授業内における教員が行う仕掛けや実践例をグループ協議する。		
発表 岩田 大	司会 吉田 哲	記録 片山 雄一郎
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 安川 隆司 氏		

分科会 英語科	テーマ パフォーマンステストを学びの起点に: 自己評価から行動へつなげる	
前半は、研究授業についての研究協議を行う。 後半は、パフォーマンステストに着目し、各校の実施状況・評価方法の共有を通して、パフォーマンステストを単なる評価ではなく、生徒が学習のサイクルに組み込む方法や、自分の課題を認識し、次に活かすための方法などについて議論する。		
発表 藤本 真由香	司会 中村 浩子	記録 谷利 淳
助言者 京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 坂井 美保 氏		

7.参加費・参加対象・お申し込みについて

- (1) 参加費 : 無料
- (2) 参加対象: 学校関係者、教育関係者
- (3) 申込期間: **令和7年10月27日(月)13時まで**
- (4) 申込方法: 本校 web サイトをご確認のうえ、「申込フォーム」よりお申し込み下さい。
以下の URL・二次元バーコードから「申込フォーム」を開くことも可能です。

URL: <https://forms.office.com/r/VzvV6hdEVy>



(本研究大会のお問い合わせ先)
京都市立堀川高等学校 研究部(浅野、松本)
メール : kenkyu-info@horikawa.ed.jp
電話 : 075-211-5351

以上